

神奈川県のパフォーム工法 現場で見学会

日本スリップ
フォーム工法協会

日本スリップフォーム工法協会(西田義則会長)は、神奈川県で大成ロテックが施工する「新東名高速道路伊勢原北IC(秦野IC間舗装工事)現場で11月9日に会員向けの見学会を開催した。写真。26人が参加し、スリップフォーム工法による施工の様子などを見学した。

見学会に先立ち、西田会長は「ICT(情報通信技術)を導入しやすいスリッ



フォーム工法の普及によって情報化施工の推進と働き方改革を図っていきたい」と訴えた。現場ではスリップフォーム工法を利用したトンネル内の連続鉄筋コンクリート舗装の施工状況を視学。同工事では情報化施工を導入しており、トータルステーション(TS)4基で測量した位置情報を使用し敷き均す工程や、大成建設グループが取り組む独自の施工情報一括管理システム「TCIM」を使って生コンクリートの出荷情報を出荷元と現場で共有する状況も見学した。

同工法はスリップフォームペーパー1台で投入した生コンの敷き均しから締め固め、成形までを行える工法。施工実績は2019年度末で1746万7000平方メートル。うち約8割を舗装工事が占め、発注件数では1991件の高速道路会社が最も多く、次いで国土交通省が1209件となっている。